

巻 頭 言

教育研究センター紀要第2号の発刊によせて

神戸親和女子大学長
教育研究センター長
山 根 耕 平

2004年に設置された教育研究センターも今年で3年目を迎えます。教育研究センターは「子ども教育研究所」、「福祉・障害児教育研究所」、「人権教育研究所」、「高等教育開発研究所」の4つの研究所からなり、2年間で多くの研究活動を展開してきました。創刊号に1年目の成果が発表されましたが、この2号では、2年目の活動成果が発表されます。7本の研究論文に加え、各研究所からの報告が掲載されています。みなさんの期待に沿う充実した内容になりました。紙面を借りて、執筆者、関係者の方々に感謝申し上げます。

今年の4月から総合文化学科を母体とする言語文化研究所が設置され、すでにシンポジウムも計画され、来年度のこの紀要にはその成果が報告されるものと思います。

学内からだけでなく、地域の外部の方々の共同研究の成果が掲載されるのも、本研究の特色です。大学と地域が連携して、社会・地域のさまざまな課題に取り組む、その過程と成果を共有することも大いに意義のあることだと思います。来年度も外部からの発表原稿を募りたいと思っています。

さて、大学教員も社会の変化に伴ってたいへん忙しくなりました。自分の研究をやり授業をするだけではすまない時代になりました。地域社会の中で相応の役割を果たさなければならぬ時代です。しかし、忙しい、負担だとネガティブに捉えるのではなく、そうした共同活動の中で、わたしたちの研究も大学も刺激を受け、そこに新しい可能性が開かれるのではないかと、ポジティブに考えたいものです。そのような意味もこめて、みなさんにご苦労さま、そして、今後の活躍を期待しています、と申し上げたいと思います。